農業ガイド1097号　2017年3月11日
スーパーカウ　十勝は10頭　2016年全国ランキング

日本ホルスタイン登録協会北海道支局（札幌市）は、年間乳量２万キロ以上の乳牛「スーパーカウ」の2016年のランキングをまとめた。全国で前年比12頭増の51頭が大台を超え、このうち十勝管内からは８牧場の10頭がランクインした。管内トップは幕別町途別の中村由治さん（58）が所有する牛だった。

「スーパーカウ」全国ランキング
2016年・十勝関係分（年乳量2万kg以上）

順位	名　号	乳量 kg	所有者
4	セントベールブルージユエリー	2万3878	中村由治（幕別）
7	YKTステイシヨンデリア	2万2742	杉浦　尚（帯広）
20	エンブレムKカカーマリア	2万1118	鈴木　進（芽室）
27	レデイスマナー MBセレブリテイ	2万0808	天野洋一（更別）
34	YKTテツチエスージー	2万0605	杉浦　尚
38	TLMイケメンナイト	2万0371	十勝ライブストックマネージメント（帯広）
41	キユーバエモリースローカム	2万0250	久保　進（広尾）
42	コムニスタービユーテイフルヨンア	2万0209	渡辺誠司（更別）
43	サンワードホワイトバツクアイ	2万0179	日光富男（更別）
45	セントベールブループリンセスET	2万0163	中村由治

日本ホルスタイン登録協会北海道支局まとめ
2016年1月1日～12月31日検定成績証明

管内首位は途別・中村さん所有牛

国内１位は富良野市の奥孝さんの所有牛で、乳量は２万5257キロだった。51頭中、奥さんは11頭がランク入りした。管内のトップは、中村さんの「セントベールブルージユエリー」の２万3878キロ。米国の血統を持つ牛で08年に生まれ、今回が４産目だった。２万超えは初めてだったが、中村さんは「乳量が多い血統だった」と語る。

後継者の友作さん（29）は「えさの嗜好（しこう）性を高め、量をたくさん食べさせることと、栄養バランスを重視しながら飼育してきた」と振り返る。２年連続でスーパーカウを輩出し、今回は２頭が２万キロを超えた中村さんは、「たくさん搾りたいと思い、結果が残せたときはうれしい」と喜びを語った。ブルージユエリーは年明けに、出産に伴う事故で残念ながら死んだが、その血を引く雌牛の「ドリームジユエリー」に期待を込めている。

他に上位10頭には管内から杉浦尚さん（帯広）が７位に入った。更別村の天野洋一さんの「レデイスマナーＭＢ　セレブリテイ」は第14回全日本ホルスタイン共進会（15年）で最高位を受賞した牛。管内のスーパーカウは前年より２頭増えた10頭だった。

国内のスーパーカウは13年の28頭まで３年連続で減少したが、14年からは３年連続で増え、16年は51頭になった。

スーパーカウの子「ドリームジユエリー」と中村さん、友作さん（右から）

生乳生産　６年連続増加　過去最高114万745トン　2017年4月5日
十勝管内2016年度産

ホクレン帯広支所がまとめた十勝管内の2016年度の生乳受託数量は、前年度比0.8％増の114万745トンで過去最高となった。６年連続の記録更新。ただ、年度前半の高い伸びが、天候不順の影響で後半は鈍化し、11月以降は前年割れが続く。同支所は「手放しで喜べない状況」としている。

牛乳や乳製品の原料となる「生乳」は、ホクレンが一元集荷して各乳業メーカーに販売している。同支所の受託数量が十勝の生産量に近い。15年度は「うるう年」のため１日分を修正した数値でまとめた。

天候不順　後半は前年割れ

16年度は４～７月が同４％増の伸びで推移。前年産の牧草の出来が良かったことや、生産者の増産意欲もあり高い水準だった。しかし、８月の蒸し暑さが尾を引いた